

ほっ とらいん ふろむ ほんごう

技術では克服できない数%を補うもの

「地域医療研究会全国大会 2007」開催される

2007年11月24日(土)・25日(日)の2日にわたって「地域医療研究会全国大会 2007」(大会長：和田忠志(千葉健愛会理事長)氏、副大会長：苅原実(いらはら診療所理事長)氏)がかずさアカデミアパーク(千葉県木更津市)において開催された。

24日は開会式の後、日野原重明(聖路加国際病院)氏による記念講演として「生きかた上手」、シンポジウムは「新たな医療制度はどうあるべきか」、さらに夜間セミナー「若月俊一と佐久総合病院の歴史に学ぶ」と題したセミナーも行なわれた。



25日は午前中に各分科会が開催された。分科会のテーマは「介護保険制度」「これからの看護師のあり方」「医師研修問題」「地域病院医療」「在宅療養支援診療所」「ターミナルケア」「小児科医療」であった。分科会5「在宅医療・在宅療養支援診療所」では伊藤真美(花の谷クリニック院長)氏が土日・深夜の在宅療養を専門とする診療所があってもいいのではないかと提案する一方、坂本仁(坂本医院院長)氏は札幌市西区の「西区在宅ケア連絡会」をもとに多職種からなる地域ネットワークの重要性を挙げた。最後に「医療がやさしさを取り戻すために」と題して川越正平(あおぞら診療所上本郷)氏を司会として鎌田實(諏訪中央病院名誉院長)氏、川島みどり(日本赤十字看護大学学部長)氏との対談が行なわれた。それぞれ「社会構造自体がやさしさを表しにくい」「患者の普段の生活を想像する力がない」と警鐘を鳴らしながら、「やさしさは医療技術では克服できない数%のものを補うことができる」「知識や技術などに基づく確かな自信があればやさしさも生まれる」と語った。さらに川島氏はナースの手の効用にも触れ、「手当て」を「te-art」として世界共通語にしたいと宣言すると、聴衆から拍手が湧き起こった。

なお、今回は2年後、佐久総合病院を主管として長野県で開催される予定。